

FUJITSU Workstation CELSIUS

CELSIUS H780

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 取り扱い

3 周辺機器

4 お手入れ

5 仕様

製品ガイド

(機種別編)

目次

本書をお読みになる前に	5
安全にお使いいただくために	5
本書の表記	5
Windowsの操作	7
BIOSやドライバーのアップデートについて	8
ハードディスクの暗号化について	9
商標および著作権について	9
第1章 各部名称	
1.1 ワークステーション本体前面	11
1.2 ワークステーション本体右側面	12
1.3 ワークステーション本体左側面	13
1.4 ワークステーション本体下面	14
1.5 キーボード	15
1.6 状態表示LED	17
第2章 取り扱い	
2.1 フラットポイント	19
2.1.1 注意事項	19
2.1.2 基本操作	20
2.1.3 フラットポイントの設定を変更する	21
2.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える	22
2.2 マウス	23
2.2.1 注意事項	23
2.2.2 マウスの基本設定を変更する	23
2.3 ディスプレイ	24
2.3.1 注意事項	24
2.3.2 明るさを調整する	24
2.3.3 解像度を変更する	25
2.3.4 拡大表示設定を変更する	26
2.4 マルチディスプレイ機能	27
2.4.1 マルチディスプレイ機能とは	27
2.4.2 注意事項	27
2.4.3 マルチディスプレイ機能を設定する	28

2.5 サウンド	29
2.5.1 全体の再生音量を調節する	29
2.5.2 アプリごとの再生音量を調節する	29
2.5.3 機器や項目ごとの音量を調節する	30
2.5.4 オーディオ端子の機能を切り替える	31
2.5.5 既定のオーディオ機器を選択する	31
2.5.6 スピーカーの音質を調節する	32
2.6 省電力	34
2.6.1 省電力状態	34
2.6.2 電源を切る	36
2.6.3 本ワークステーションの節電機能	37
2.6.4 省電力設定	38
2.6.5 ピークシフト	39
2.6.6 ECO Sleep	40
2.7 バッテリ	41
2.7.1 注意事項	41
2.7.2 バッテリを充電する	42
2.7.3 バッテリの残量を確認する	43
2.7.4 バッテリを交換する	44
2.7.5 バッテリの充電モードを変更する	46
2.7.6 バッテリの状態を確認する	46
2.8 通信	47
2.8.1 有線LAN	47
2.8.2 無線LAN	48
2.8.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー	49
2.8.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する	49
2.9 ステータスパネルスイッチ	51
2.9.1 注意事項	51
2.9.2 ステータスパネルスイッチを起動する	51
2.9.3 ステータスパネルスイッチでモードを切り替える	52
2.9.4 各モードの設定を変更する	53
2.10 ダイレクト・メモリースロット	54
2.10.1 注意事項	54
2.10.2 使用できるメモリーカード	55
2.10.3 メモリーカードをセットする	55
2.10.4 メモリーカードを取り出す	56
2.11 暗号化機能付フラッシュメモリディスク	57
2.12 セキュリティチップ (TPM)	58
2.13 電源オフUSB充電機能	59
2.13.1 注意事項	59
2.13.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する	60

第3章 周辺機器

3.1	周辺機器を取り付ける前に	62
3.1.1	注意事項	62
3.2	メモリ	63
3.2.1	注意事項	63
3.2.2	取り付けられるメモリ	64
3.2.3	メモリを取り付ける	65
3.2.4	メモリを取り外す	67
3.3	コネクタの接続／取り外し	68
3.3.1	注意事項	68
3.3.2	ディスプレイコネクタ	68
3.3.3	USBコネクタ	69
3.3.4	オーディオ端子	70
3.3.5	LANコネクタ	71

第4章 お手入れ

4.1	日常のお手入れ	73
4.1.1	ワークステーション本体、キーボード、マウスの表面の汚れ	73
4.1.2	手のひら静脈センサー	73
4.1.3	液晶ディスプレイ	74

第5章 仕様

5.1	本体仕様	76
5.1.1	CELSIUS H780	76
5.1.2	グラフィックスアクセラレーター	80
5.2	CPU	81
5.3	ディスプレイ	83
5.3.1	シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度	83
5.3.2	クローン表示の解像度	85
5.4	無線LAN	86

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2018年9月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイス マネージャー」をクリックする操作

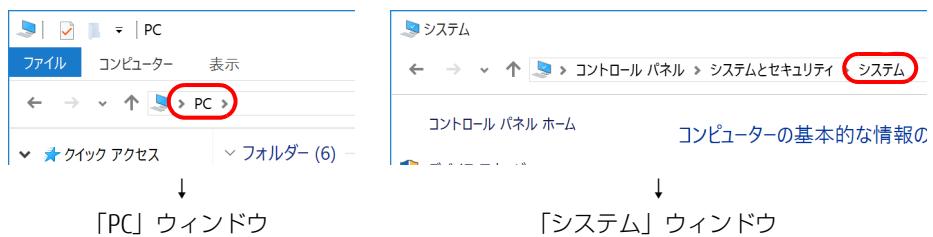


「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイス マネージャー」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報を読みください。

■ 「ハードディスク」 の記載について

フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、このワークステーションに内蔵されたハードディスクを示す箇所は、フラッシュメモリディスクに読み替えてください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Windows 10 Pro for Workstations 64ビット版	Windows 10 Pro for Workstations	Windows 10	Windows
Windows 10 Pro 64ビット版	Windows 10 Pro		
Bluetooth®	Bluetooth		
NVIDIA Quadro® P2000	Quadro P2000	Quadroシリーズ	
NVIDIA Quadro® P1000	Quadro P1000		
NVIDIA Quadro® P600	Quadro P600		

Windowsの操作

■ アクションセンター

アプリからの通知を表示する他、クリックすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

- 1 画面右下の通知領域にある□をクリックします。
画面右側に「アクションセンター」が表示されます。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

■ Windowsのヒント

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヒントをご覧ください。

Windowsのヒントのご利用は、ネットワークに接続する必要があります。

- 1 「スタート」ボタン→「ヒント」をクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ヒントを参照する」をクリックします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

デスクトップ画面右下の通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の ▲ をクリックします。

■ Windowsモビリティセンター

本ワークステーションのいくつかの機能は、「Windowsモビリティセンター」で操作できます。「Windowsモビリティセンター」は次の操作で起動します。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン（）を右クリックし、「Windowsモビリティセンター」をクリックします。

POINT

- ▶ 次の操作でも「Windowsモビリティセンター」を表示できます。
 - ・【Shift】+【X】キーを押す
表示されたメニューから「モビリティセンター」をクリックします。
 - ・「スタート」ボタンを右クリックする
表示されたメニューから「モビリティセンター」をクリックします。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本ワークステーションには、さまざまなアプリや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。

これらのアプリ、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。

アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本ワークステーションをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。

アップデート方法については、弊社アップデートサイト（http://www.fmworld.net/biz/fmw/index_down.html）をご覧ください。

ハードディスクの暗号化について

次の場合は、「デバイスの暗号化」機能により、本ワークステーション搭載のハードディスクが自動的に暗号化されることがあります。

- Microsoftアカウントでワークステーションにサインインしている場合
- Azure Active Directoryアカウントでワークステーションにサインインしている場合

暗号化されたハードディスクを修理した場合や修理によりハードウェア情報が更新された場合、ワークステーション起動時に「回復キー」の入力を求められます。

「回復キー」を入力しないとワークステーションを起動することができないため、次の手順で事前に「回復キー」を確認し、なくさないように保管してください

- 1** 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.7）を表示します。
- 2** 「システムとセキュリティ」→「BitLocker ドライブ暗号化」の順にクリックします。
- 3** 「BitLocker ドライブ暗号化」画面の「回復キーのバックアップ」をクリックします。
- 4** 表示されたメニューから「ファイルに保存する」または「回復キーを印刷する」を選択し保管します。

POINT

- ▶ 事前に「回復キー」を保管していない場合は、マイクロソフト社のホームページで確認することができます。次のURLにサインインしてください。
 - ・ Microsoftアカウントを利用している場合
<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=237614>
 - ・ Azure Active Directoryアカウントを利用している場合
<https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=857635>

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Intel SpeedStep、Intel vPro、Thunderbolt、Thunderbolt ロゴ、Xeonは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

NVIDIA、NVIDIA QuadroはNVIDIA Corporationの登録商標です。

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、富士通株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing, LLCの商標または、登録商標です。

MaxxAudioは、Waves Audio Ltd.の米国およびその他の国における登録商標です。



SDXCロゴは SD-3C, LLC. の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

1

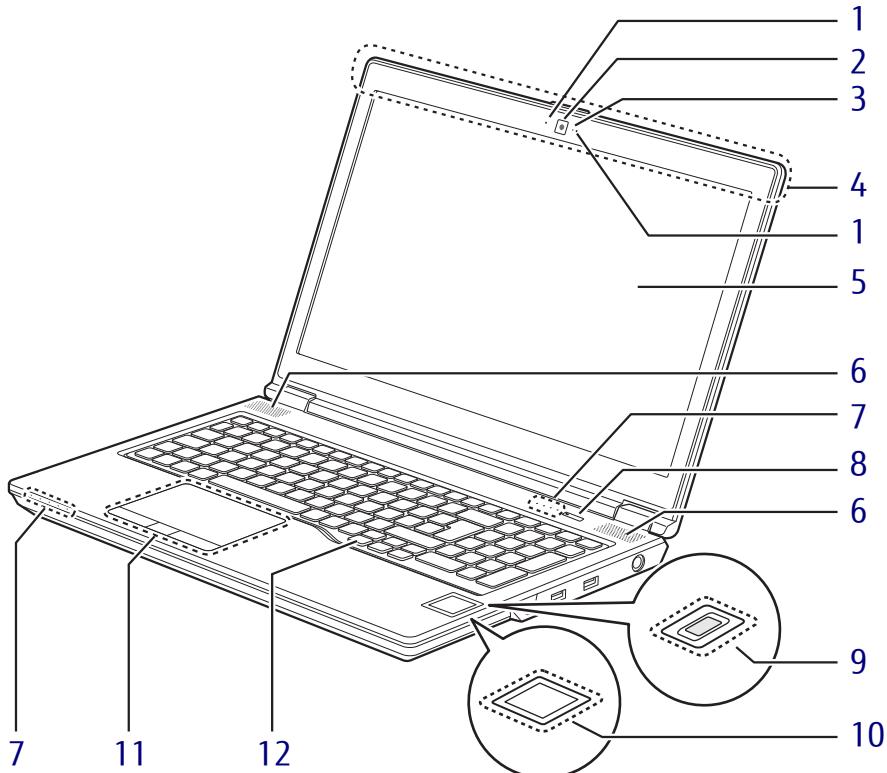
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 ワークステーション本体前面	11
1.2 ワークステーション本体右側面	12
1.3 ワークステーション本体左側面	13
1.4 ワークステーション本体下面	14
1.5 キーボード	15
1.6 状態表示LED	17

1.1 ワークステーション本体前面



1 内蔵マイク

音声通話や録音ができます。

2 Webカメラ

3 Webカメラ状態表示LED

Webカメラが動作しているときに点灯します。

4 ワイヤレスアンテナ

5 液晶ディスプレイ

(→P.24)

6 スピーカー

(→P.29)

7 状態表示LED

(→P.17)

8 ⏪ 電源ボタン

ワークステーション本体の電源を入れたり、省電力状態(→P.34)にしたりします。

9 指紋センサー

(指紋センサー搭載機種)

コンピューターやWindowsの起動時などに指紋認証によるセキュリティを設定できます。詳しくは、SMARTACCESS/Basicのマニュアルをご覧ください。

10 手のひら静脈センサー

(手のひら静脈センサー搭載機種)

コンピューターやWindowsの起動時などに静脈認証によるセキュリティを設定できます。詳しくは、SMARTACCESS/Basicのマニュアルをご覧ください。

お手入れ方法については、「4.1.2 手のひら静脈センサー」(→P.73)をご覧ください。

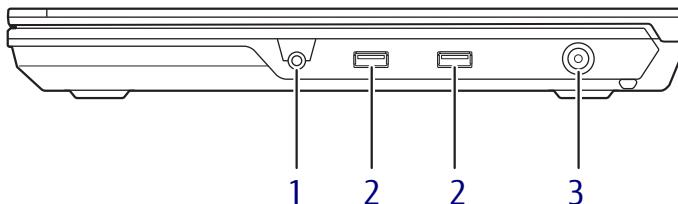
11 フラットポイント

(→P.19)

12 キーボード

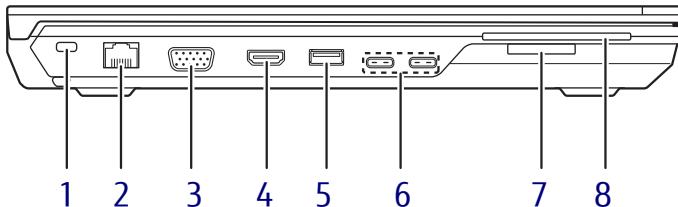
(→P.15)

1.2 ワークステーション本体右側面



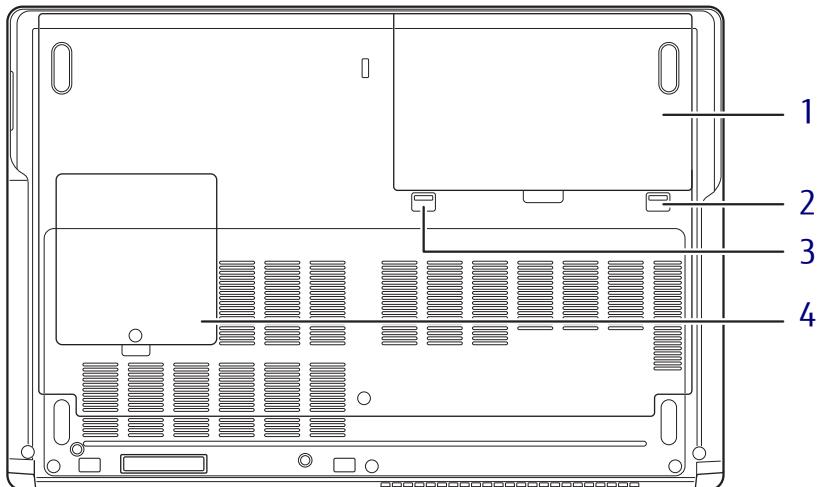
- 1** マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子
(→P.31)
- 2** USB3.1 (Gen2) Type-A
コネクタ
(→P.69)
- 2** DC-IN コネクタ
添付のACアダプタを接続します。
- 3**

1.3 ワークステーション本体左側面



- 1** 盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防
止用品については、富士通製品情報ページ
内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。
- 2** LANコネクタ
(→P.71)
- 3** アナログディスプレイコネクタ
(→P.68)
- 4** HDMI出力端子
(→P.68)
- 5** USB3.0 Type-Aコネクタ
(電源オフUSB充電機能対応)
(→P.69)
電源オフUSB充電機能については、「2.13
電源オフUSB充電機能」(→P.59) をご覧
ください。
- 6** USB3.1 Type-Cコネクタ
(→P.69)
Thunderbolt3に対応しています。
- 7** ダイレクト・メモリースロット
(→P.54)
- 8** スマートカードスロット
Windowsの起動や、ソフトウェアのサイン
イン時のセキュリティ認証用に使えるス
マートカードをセットします。
スマートカードはICチップのある方を下側
にして挿入してください。
詳しくは、SMARTACCESS/Basicのマニュア
ルをご覧ください。

1.4 ワークステーション本体下面



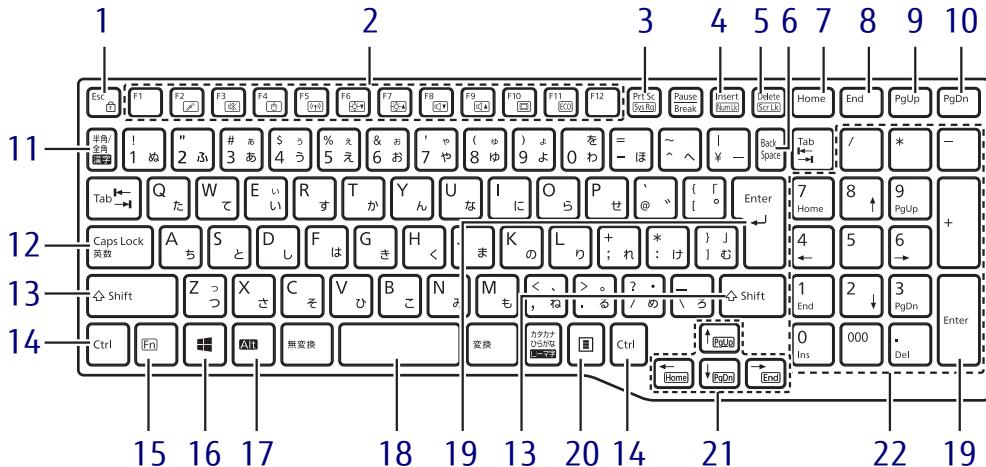
1 内蔵バッテリパック
(→P.41)

2 内蔵バッテリパックロック
内蔵バッテリパックを取り外すときに使用
します。 (→P.44)

3 内蔵バッテリパックロック1
内蔵バッテリパックを取り外すときに使用
します。 (→P.44)

4 メモリスロットカバー
(→P.63)

1.5 キーボード



1 【Esc/F】キー

- このキーだけを押すと、現在の作業を取り消します。
- F Lock機能 (F)

【Fn】キー (→P.16) を押しながらこのキーを押すごとに、F Lock機能の有効／無効を切り替えます。

F Lock機能を有効にすると、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー (→P.15) の機能を使用できます。

○ 要

- F Lock機能の有効／無効は、「Function Key Lock Utility」でも切り替えることができます。

POINT

- F Lock機能は、Windowsが起動している場合にのみ使用できます。
Windows起動前およびBIOSセットアップでは、F Lock機能は使用できません。

2 ファンクションキー／ホットキー

- ファンクションキー (【F1】～【F12】)
アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。

・ホットキー（枠で囲われている刻印）

【Fn】キー (→P.16) を押しながら使用したい機能のキーを押します。
各キーの機能は次のとおりです。

POINT

- F Lock機能 (→P.15) が有効の場合は、【Fn】キーを押さずにホットキーだけを押します。

	マイクのオン／オフを切り替える
	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える (→P.29)
	フラットポイントの有効と無効を切り替える (→P.22)
	無線通信の電波の発信／停止を切り替える
	液晶ディスプレイを暗くする (→P.24)
	液晶ディスプレイを明るくする (→P.24)
	音量を小さくする (→P.29)
	音量を大きくする (→P.29)
	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替える
	省電力モードのオン／オフを切り替える (→P.51)

3 【Prt Sc】キー

画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 【Insert】キー／【Num Lk】キー

【Insert】キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Num Lk】キー	テンキー（→P.16）での入力のオン／オフを切り替える 【Fn】キーと組み合わせて使う

5 【Delete】キー／【Scr Lk】キー

【Delete】キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う

6 【Back Space】キー

7 【Home】キー

8 【END】キー

9 【Page Up】キー

10 【Page Down】キー

11 【半角／全角】キー

日本語入力のオン／オフを切り替えます。

12 【Caps Lock】キー

【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

13 【Shift】キー

14 【Ctrl】キー

15 【Fn】キー

【Fn】キーを押しながら、ファンクションキー（→P.15）のうち枠で囲まれている刻印のあるキー（ホットキー）を押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

POINT

▶ F Lock機能（→P.15）が有効の場合、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキーの機能を使用できます

16 【Windows】(Windows)キー

「スタート」メニューを表示します。

17 【Alt】キー

18 【Space】キー

19 【Enter】キー

20 【】(アプリケーション)キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

21 カーソルキー

矢印の方向にカーソルを移動します。

また、【Fn】キーを押しながらカーソルキーを押すと、次の機能を使用できます。

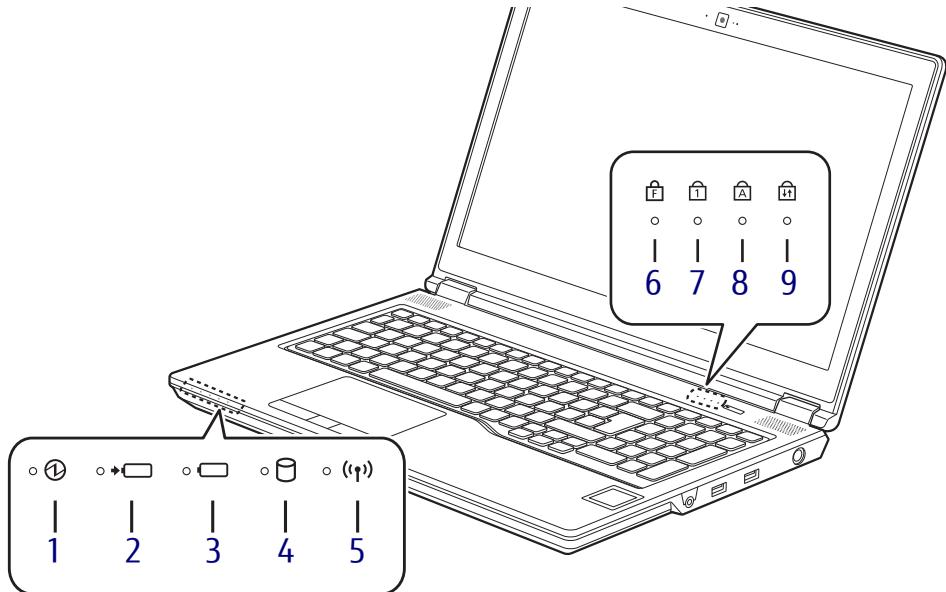
【← /Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Ctrl】 + 【← /Home】	文章の最初に移動する
【↑ /Pg Up】	前の画面に切り替える
【↓ /Pg Dn】	次の画面に切り替える

22 テンキー

「Num Lockランプ」点灯時に数字が入力できます。

「Num Lockランプ」消灯時にキ一下段に刻印された機能が有効になります。

1.6 状態表示LED



1 電源ランプ

本ワークステーションの状態を表示します。

LEDランプ	本ワークステーションの状態
白色点灯	動作状態
白色点滅	スリープ状態
消灯	電源オフまたは休止状態

2 バッテリ充電ランプ

(→P.42)

3 バッテリ残量ランプ

(→P.43)

4 ディスクアクセスランプ

ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

5 ワイヤレス通信ランプ

本ワークステーションの無線の状態を表示します。

LEDランプ	無線通信状態
白色点灯	可（機内モードオフ（→P.50））
白色点滅	可 ・Wakeup on LANが有効で省電力状態 ・インテル® AMT機能が有効で省電力状態および電源オフ時
消灯	不可

6 F Lockランプ

F Lock機能（→P.15）が有効のときに点灯します。

点灯時は、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー（→P.15）の機能を使用できます。

7 Num Lockランプ

テンキーによる数字の入力がオンのときに点灯します。

8 Caps Lockランプ

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

9 Scroll Lockランプ

【Fn】+【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

2

第2章

取り扱い

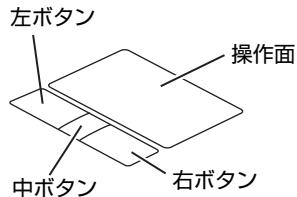
本ワークステーションを使用するうえでの基本操作や、本ワークステーションに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 フラットポイント	19
2.2 マウス	23
2.3 ディスプレイ	24
2.4 マルチディスプレイ機能	27
2.5 サウンド	29
2.6 省電力	34
2.7 バッテリ	41
2.8 通信	47
2.9 ステータスパネルスイッチ	51
2.10 ダイレクト・メモリースロット	54
2.11 暗号化機能付フラッシュメモリディスク	57
2.12 セキュリティチップ（TPM）	58
2.13 電源オフUSB充電機能	59

2.1 フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。

ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



中ボタンは、対応するアプリでのみ使用できます。

2.1.1 注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。

2.1.2 基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をします。

操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT

- ▶ 指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

■ フラットポイントの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「タッチパッド」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連する設定」の「追加の設定」をクリックします。
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.1.3 フラットポイントの設定を変更する

1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。

2 画面左側のメニューで「タッチパッド」をクリックします。



3 画面右側の各項目で、使いたい機能を設定します。

必要に応じて設定を変更してください。

タッチパッド	フラットポイントのオンとオフを切り替えます。 マウス接続時のフラットポイントのオン／オフを切り替えます。 カーソルの速度を変更します。
タップ	キーボード操作時にフラットポイントに触れ誤入力が起きるときは、フラットポイントの感度を下げます。 1本指での操作、2本指での操作を設定します。
スクロールとズーム	2本指でのスクロール、スクロールの方向、ズーム操作を設定します。
3本指ジェスチャの設定	3本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。
4本指ジェスチャの設定	4本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。
設定のリセット	タッチパッドの設定、ジェスチャの設定を初期設定に戻します。

2.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える

◀ 重要

- ▶ フラットポイントを無効にする場合は、必ずUSBマウスを接続してください。

□ キーボードで切り替える

【Fn】 + 【F4】キーを押すたびに、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。

無効 → 有効

POINT

- ▶ 【Fn】 + 【F4】キーを押すたびに、画面右下部に状況を示すメッセージが表示されます。
- ▶ F Lockランプ（→P.17）が点灯している場合はF Lock機能（→P.15）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F4】キーを押すだけで切り替わります。

□ デスクトップから切り替える

- 1 「スタート」ボタン→ (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「タッチパッド」をクリックします。
- 3 画面右側の「タッチパッド」のオン／オフを切り替えます
 - ・「オン」：フラットポイントを有効にする
 - ・「オフ」：フラットポイントを無効にする

POINT

- ▶ マウスとフラットポイントの同時使用次の操作で、マウスとフラットポイントを同時に使用する設定を変更できます。
 1. 「スタート」ボタン→ (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。
 2. 画面左側のメニューで「タッチパッド」をクリックします。
 3. 画面右側の「マウスの接続時にタッチパッドをオフにしない」で設定を変更します。
 - ・チェックを付ける：マウスとフラットポイントを同時に使用できます。
 - ・チェックを外す：マウス接続時にフラットポイントが無効になります。

2.2 マウス

対象 マウス使用時

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.2.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「マウス」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「その他のマウス オプション」をクリックします。
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.3 ディスプレイ

ここでは、本ワークステーションの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。

複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.4 マルチディスプレイ機能」(→P.27) をご覧ください。

2.3.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがあります、故障ではありません。

2.3.2 明るさを調整する

本ワークステーションの液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。

POINT

- ▶ 明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「□ 「電源オプション」で変更する」(→P.25) をご覧ください。

□スライダーで変更する

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 画面右側のメニューで「明るさの変更」のスライダーを左右に動かします。
スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

POINT

- ▶ アクションセンター (→P.7) でも明るさを調整できます。
タイルをクリックするごとに、明るさのレベルが変わります。

□キーボードで明るさを変更する

明るくする	【Fn】 + 【F7】キーを押す
暗くする	【Fn】 + 【F6】キーを押す

POINT

- ▶ F Lockランプ (→P.17) が点灯している場合はF Lock機能 (→P.15) が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F7】／【F6】キーを押すだけで明るさを変更できます。

画面左上部に明るさを示すインジケーターが表示されます。

□ステータスパネルスイッチで変更する

- 1 デスクトップ画面のタスクバーにある  をクリックします。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「画面の明るさ」ボタンをクリックします。
ボタンをクリックするたびに、次のように切り替わります。
・明るい→中間→暗い

□「Windowsモビリティセンター」で変更する

- 1 「Windowsモビリティセンター」(→P.8)を起動します。
- 2 「ディスプレイの明るさ」のスライダーを左右に動かします。

□「電源オプション」で変更する

現在選択されていない電源プランや、現在と異なる電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）の明るさの設定は、「電源オプション」で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 5 明るさを変更し、「変更の保存」をクリックします。

2.3.3 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 解像度を変更します。
 1. 画面右側の「解像度」で設定したい解像度を選択します。
 2. 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。
- 4 リフレッシュレートを変更します。
 1. 画面右側の「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。
「ディスプレイの詳細設定」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ディスプレイ1のアダプターのプロパティを表示します」をクリックします。
 3. 表示されたウィンドウで「モニター」タブをクリックします。

4. 「画面のリフレッシュレート」を選択し「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」(→P.83) をご覧ください。
- ▶ 次の手順でも、解像度を変更することができます。
 1. デスクトップで右クリックし、「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。
「インテル® UHD グラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。
 2. 「ディスプレイ」アイコンをクリックします。
 3. 「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。
 4. 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。
- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.3.4 拡大表示設定を変更する

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

- 1 デスクトップで右クリックし、「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。
「インテル® UHD グラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。
- 2 「ディスプレイ」アイコンをクリックします。
- 3 「スケーリング」を設定します。
 - ・ディスプレイ・スケーリングを保持する
ディスプレイの拡大表示機能を使用します。
 - ・縦横比を保持する
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
 - ・全画面のスケールにする
画面がディスプレイ全体に拡大されます。
 - ・画像を中央揃えにする
画面は拡大されずに中央に表示されます。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

- 4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4 マルチディスプレイ機能

本ワークステーションに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.3.2 ディスプレイコネクタ」(→P.68) をご覧ください。

2.4.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

【■】 + 【P】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。ただし、DisplayPortに接続している場合は、【■】 + 【P】キーでクローン表示に切り替えることはできません。

2.4.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本ワークステーションの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するアプリは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。Windowsが起動するまでの間は、BIOSセットアップの設定が有効になります。起動設定は、『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- DisplayPort接続したクローン表示では、著作権保護されたコンテンツを再生できません。
- 3画面にクローン表示することはできません。

2.4.3 マルチディスプレイ機能を設定する

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 画面右側の「複数のディスプレイ」で表示したい画面に設定します。
 - ・表示画面を複製する：クローン表示になります。
 - ・表示画面を拡張する：拡張デスクトップ表示になります。
 - ・1のみに表示する：シングル表示になります。ワークステーション本体のディスプレイのみに表示します。
 - ・2のみに表示する：シングル表示になります。外部ディスプレイのみに表示します。
- 4 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。
- 5 必要に応じて、表示する画面の位置、明るさ、解像度、向きを選択します。

POINT

- ▶ 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」(→P.83) をご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートを変更する場合は、「2.3.3 解像度を変更する」(→P.25) の手順4を行ってください。

2.5 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。

オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.3.4 オーディオ端子」(→ P.70) をご覧ください。

2.5.1 全体の再生音量を調節する

ワークステーション本体のスピーカーや、本ワークステーションに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

上げる	【Fn】 + 【F9】キーを押す
下げる	【Fn】 + 【F8】キーを押す
ミュートする ミュートを解除する	【Fn】 + 【F3】キーを押す

POINT

- ▶ F Lockランプ(→P.17)が点灯している場合はF Lock機能(→P.15)が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F9】／【F8】／【F3】キーを押すだけで音量を変更できます。

画面左上部に音量を示すインジケーターが表示されます。

POINT

- ▶ デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン(🔊)をクリックして表示されるスライダーで調節することもできます。

2.5.2 アプリごとの再生音量を調節する

アプリごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

- 1 音量を調節するアプリを起動します。
- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン(🔊)を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの音量を調節します。

2.5.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」(→P.30)、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」(→P.31)をご覧ください。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.3.4 オーディオ端子」(→P.70)
- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン (🔊) を右クリックし、「サウンド」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 3 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。
- 4 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「レベル」タブをクリックします。
- 6 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
スピーカー	
Realtek HD Audio output	ワークステーション本体のスピーカーや本ワークステーションに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
マイク	本ワークステーションでは使用しません
ライン入力	本ワークステーションでは使用しません
Line Out	マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子から出力される音の再生音量（スピーカーアウト設定時）
[ディスプレイ名] 注1	
[ディスプレイ名] 注1	HDMI出力端子およびUSB Type-Cコネクタに接続されたディスプレイから出力される音の再生音量

注1：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
マイク配列	
マイク配列	<ul style="list-style-type: none">マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子から入力される音の録音音量 (コネクタ設定がマイク入力に設定されている場合)内蔵マイクから入力される音の録音音量 (コネクタ設定がマイク入力以外に設定されている場合)
マイクブースト	<ul style="list-style-type: none">マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子から入力される音のマイクブーストのレベル (コネクタ設定がマイク入力に設定されている場合)内蔵マイクから入力される音のマイクブーストのレベル (コネクタ設定がマイク入力以外に設定されている場合)
ライン入力	
ライン入力	マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子から入力される音の録音音量（ライン入力設定時）

2.5.4 オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

- 1 オーディオ端子に機器を接続します（→P.70）。
- 2 「スタート」ボタン→「Realtek Audio Console」の順にクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「デバイス詳細設定」をクリックします。
- 4 画面右側の「コネクタを再接続しています」の下に表示されているコネクタで、使用したいデバイスを選択します。

2.5.5 既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（）を右クリックし、「サウンド」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 2 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。
- 3 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。
- 4 「OK」をクリックします。

2.5.6 スピーカーの音質を調節する

ワークステーションに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるステレオ感や、重厚感のある低音を実現します。

☞ 重 要

- ▶ Waves MaxxAudioの音質の調節は、内蔵スピーカーとヘッドホンが対象となります。
- ▶ お使いの機種や状況によって、調節できない項目もあります。
- ▶ サンプルレートを192000Hzに設定する場合は、192000Hzの音源を忠実に再生するためには、Waves MaxxAudioをOFFにしてお使いください。

1 「スタート」ボタン→「Waves MaxxAudio」の順にクリックします。

2 好みの音質になるように、設定を変更します。



- (1) MaxxAudio機能のON／OFFを切り替えます。
- (2) 各設定を初期値に戻します。
- (3) ヘッドホン使用時は、「ヘッドフォン」と表示されます。内蔵スピーカー使用時は、「内部スピーカー」と表示されます。
ここに表示された出力デバイスと(4)のコンテンツのジャンルの組み合わせごとに音質を調節できます。
- (4)「音楽」「映画」からコンテンツのジャンルを選択できます。
- (5) イコライザー
●をドラッグすることで、好みの周波数特性を設定できます。
- (6) レベル・メーター

(7) ドラッグして青い部分を増減させ、各種音質の調節ができます。

- ・ MaxxBass
音響心理学に基づいた倍音再生技術により、低音を充分感じ取れるようにします。
- ・ 詳細
高域の小さな音は大きくして聞き取りやすくする一方、高域の大きな音はやかましくならないよう一定レベル以下に抑えます。

- ・ ワイド
左右スピーカーの向く角度だけを疑似的に変えて、ステレオ感を広げます。
ヘッドホン使用時は0になります。

(8) 各機能のON／OFFを切り替えます。

- ・ 寸法
ヘッドホン使用時、スピーカーで聞いているような自然な広がりのステレオ感を得られます。スピーカー使用時はONにできません。
- ・ ノイズ低減
背景から聞こえる定的なノイズを除去します。通常はOFFでお使いください。
- ・ リバイブ
mp3などの低ビットレート・ソースで失われがちな音を復元することで音質を改善します。

2.6 省電力

ここでは、ワークステーションを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.6.1 省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しずつ消費しますが、素早くレジュームできます。休止状態ではハードディスクにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- Wakeup on LAN機能によるレジュームを有効にしているときは、省電力状態で本ワークステーションの液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイを閉じたときに何もしないように設定した場合は、本ワークステーションの動作中には液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す ^{注1}	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.38)
液晶ディスプレイを閉じる ^{注2}	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.38)
メニューから選択する	次の操作で選択したメニューの動作になります。 1. 「スタート」ボタン→  (電源) の順にクリックし、メニューを選択します。
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.38)
バッテリ残量が少なくなる	休止状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.38)

注1：電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本ワークステーションの電源が切れてしまいます。

注2：液晶ディスプレイを閉じた後は、電源ランプ(→P.17)で省電力状態になったことを確認してください。省電力状態にならないと放熱が妨げられ、故障の原因となります。

■ 省電力状態からレジュームする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。
液晶ディスプレイを開く ^{注1}	レジュームします。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.38)
USBキーボードやUSBマウスを操作する ^{注2}	無効に設定されています。 「■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する」(→P.36)
Wakeup on LAN (WoL) 機能	無効に設定されています。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.35)

注1：液晶ディスプレイを開いたときの設定は、「カバーを閉じたときの動作」の設定と連動します。

注2：休止状態からはレジュームしません。

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本ワークステーションを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、省電力状態からレジュームするための設定について説明します。

電源オフ状態から起動する機能については、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wakeup on LANを有効にする」をご覧ください。

- 1 管理者アカウントでサインインします。
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウ(→P.7)を表示します。
- 3 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。

- 4** 画面左側のメニューで「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
- 5** 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
- 6** 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) Ethernet Connection I219-LM
- 7** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 8** WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
 - ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

 **POINT**

- ▶ マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。

- 9** 「OK」をクリックします。

■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する

USBキーボードやUSBマウスを操作してスリープ状態からレジュームする設定は、次の手順で変更します。

- 1** 「Windows モビリティセンター」(→P.8) を起動します。
- 2** 「スリープ状態からの復帰」に表示されている現在の設定を確認し、必要に応じて「切り替える」をクリックします。

2.6.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてワークステーション本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、ワークステーション本体の電源を切れます。

□ Windowsを終了する

1 「スタート」ボタン→  (電源) の順にクリックします。

2 「シャットダウン」をクリックします。

□ 完全に電源を切る

重要

▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でワークステーションの電源を切ってください。

- ・ BIOS セットアップを起動する
- ・ 診断プログラムを使用する
- ・ メモリを交換する
- ・ バッテリを交換する
- ・ ハードディスクデータ消去

1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「更新とセキュリティ」の順にクリックします。

2 画面左側のメニューで「回復」をクリックします。

3 画面右側のメニューで「今すぐ再起動」をクリックします。

4 「PCの電源を切る」をクリックします。

2.6.3 本ワークステーションの節電機能

本ワークステーションには、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となるワークステーションの状態との関係は次のとおりです。

節電機能	ワークステーションの状態		
	電源オン	スリープ状態	休止状態／電源オフ
省電力設定 (→P.38) ワークステーションの消費電力を低減する。	○	—	—
ピークシフト (→P.39) ACアダプタとバッテリの運用を切り替える。	○	—	—
ステータスパネルスイッチ (→P.51) ワークステーションの消費電力を低減する。	○	—	—
ECO Sleep (→P.40) ACアダプタからの電力供給を停止する。	—	—	○

2.6.4 省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えたり設定を変更することで、消費電力を抑えることができます。

■ 電源プランを切り替える

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 4 お使いになる電源プランをクリックします。

POINT

- ▶ ご購入時の電源プランは「バランス」のみ用意されています。電源プランは新規に作成することができます。

□ 新規に電源プランを作成する場合

- 1 「電源オプション」ウィンドウ左のメニューで「電源プランの作成」をクリックします。
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 5 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 6 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

- 7 「OK」をクリックします。

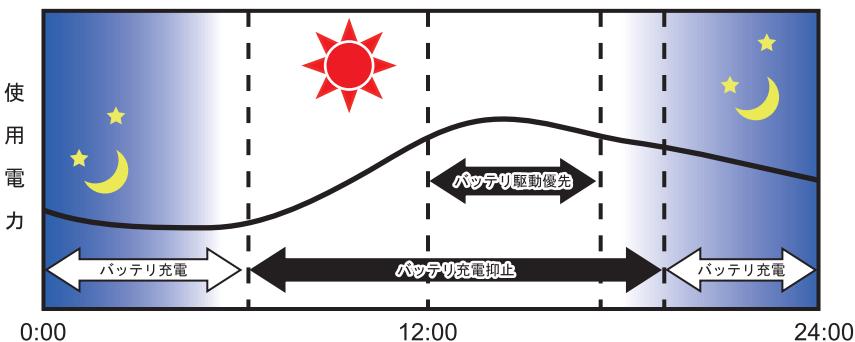
2.6.5 ピークシフト

◀ 重要

- ▶ 「ピークシフト設定」をご使用になる場合は、インストールする必要があります。
インストール方法については、『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」—「1.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」をご覧ください。

設定した時間にあわせてACアダプタ運用とバッテリ運用を切り替えられる機能です。1日のうち電力需要のピークタイムをはさんでワークステーションを連続してお使いになる場合に有効です。

- 使用例



◀ 重要

- ▶ バッテリは消耗品であり、充放電を繰り返すたびに少しづつ性能が劣化します。ピークシフトを利用するとバッテリの充放電回数が増えるため、性能劣化が早まる場合があります。なお、バッテリが劣化している場合には、バッテリ駆動時間が短くなり、充分な効果を得られないことがあります。

■ ピークシフトを設定する

ピークシフトが動作する期間と、バッテリ駆動優先の時間帯、バッテリ充電抑止の時間帯を設定できます。一度設定を行うと、ワークステーションが起動するたびに、自動的に有効になります。

1 「スタート」ボタン→「FUJITSU - ピークシフト設定」→「設定」の順にクリックします。

2 必要に応じて、設定を変更します。

POINT

- ▶ 「ピークシフト設定」では、2つの期間を設定できます。
例えば、設定1に夏季、設定2に冬季の設定を行うなどのように使用します。
- ▶ ピークシフトの詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
 1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - ピークシフト設定」→「ソフトウェア説明書」の順にクリックします。

2.6.6 ECO Sleep

電源オフ状態や休止状態でバッテリの充電が完了している場合に、ACアダプタからの電力供給を止めることにより消費電力を抑える機能です。

■ ECO Sleepを有効にする

- 1** 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」→「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
- 2** 「ECO Sleep」をクリックします。
- 3** 「変更」をクリックします。
- 4** ECO Sleepを有効にする場合は「低待機モード」を、ECO Sleepを無効にする場合は「通常モード」を選択し、「OK」をクリックします。

2.7 バッテリ

ここでは、バッテリを使用して本ワークステーションを使用する方法や注意事項について説明しています。

バッテリの充電時間や駆動時間など、バッテリの仕様については「5.1 本体仕様」(→P.76) をご覧ください。

2.7.1 注意事項

■ バッテリの取り扱い

- 本ワークステーションに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。
- バッテリを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり強い衝撃を与えたりしたバッテリは使用しないでください。
- バッテリやワークステーション本体のバッテリコネクタには触れないでください。
- バッテリは分解しないでください。
- 長期間（約1ヶ月以上）本ワークステーションを使用しないときは、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。ワークステーション本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。
- 高温環境に放置しないでください。バッテリが劣化します。

■ バッテリで運用するとき

- 本ワークステーションの使用中にバッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリの残量に注意してお使いください。バッテリの残量を確認するには、「2.7.3 バッテリの残量を確認する」(→P.43) をご覧ください。
- バッテリ運用時は、CPUやグラフィックスの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本ワークステーションの機能を多用したり負荷の大きいアプリを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本ワークステーションを省電力モードにすることにより、バッテリ駆動時間を長くすることができます。ただし、モードを切り替える前の状態によっては、バッテリ駆動時間が長くならない場合もあります。モードの切り替え方法については、「2.9 ステータスパネルスイッチ」(→P.51) をご覧ください。
- バッテリは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリ駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力が低下します。

■ 寿命について

- バッテリは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリ駆動時間が短くなります。バッテリの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリの寿命です。新しいバッテリと交換してください。
- ワークステーション本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「2.7.5 バッテリの充電モードを変更する」(→P.46)をご覧ください。

2.7.2 バッテリを充電する

1 ワークステーション本体にACアダプタを接続します。

充電が始まります。バッテリの充電状態は、バッテリ充電ランプ (→P.17) で確認できます。

バッテリ充電ランプ	バッテリの充電状態
オレンジ色 ^{注1}	充電中
白色	充電完了 ^{注2}
消灯	・ ACアダプタが接続されていない ・ 内蔵バッテリパックが取り付けられていない

注1：点滅している場合は、バッテリの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。

注2：電源オフ状態や省電力状態では点灯しません。

POINT

- ▶ バッテリを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
 - ・充電モードが「フル充電モード」で、バッテリの残量が90%以上の場合
 - ・充電モードが「80%充電モード」で、バッテリの残量が70%以上の場合バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

2.7.3 バッテリの残量を確認する

バッテリの残量は、バッテリ残量ランプ（→P.17）で確認できます。

なお、表示されるバッテリの残量は、バッテリの特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。

バッテリ残量ランプ	バッテリの残量
白色 <small>注</small>	100%～51%
オレンジ色 <small>注</small>	50%～13%
赤色 <small>注</small>	12%以下
消灯	バッテリが接続されていない

注：ACアダプタの接続状態により次のようになります。

- ・電源オン：点灯
- ・スリープ状態：点灯（ACアダプタ接続中）またはゆっくり点滅（ACアダプタ未接続）
- ・電源オフ／休止状態：点灯（ACアダプタ接続中）または消灯（ACアダプタ未接続）

■ 重 要

- ▶ 短い間隔で赤色に点滅している場合は、バッテリが正しく充電されていません。ワークステーション本体の電源を切ってからバッテリを取り付け直してください。それでも状態が変わらない場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。

■ POINT

- ▶ より詳しいバッテリの状態は「バッテリーユーティリティ」で確認できます。詳しくは、「2.7.6 バッテリの状態を確認する」（→P.46）をご覧ください。

■ バッテリ残量ランプが赤色に点灯したら

バッテリの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 充電済みのバッテリに交換する（→P.44）
- 本ワークステーションを休止状態にする
「■ 省電力状態にする」（→P.35）
- 作業を終了して本ワークステーションの電源を切る
「2.6.2 電源を切る」（→P.36）

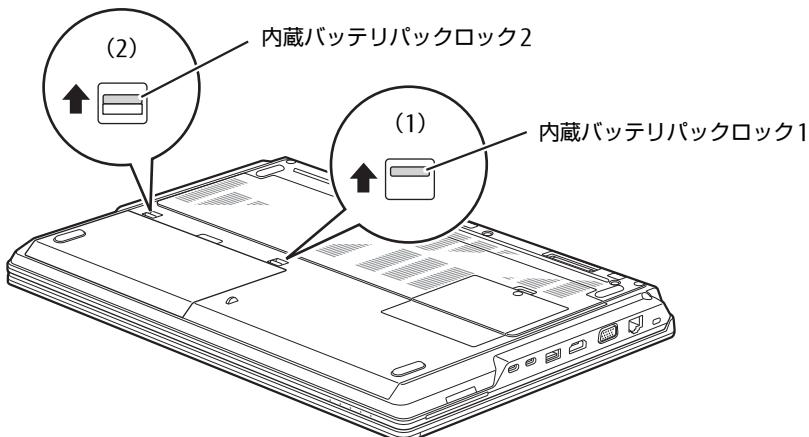
ご購入時は、バッテリの残量が約5%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.38）をご覧ください。

2.7.4 バッテリを交換する

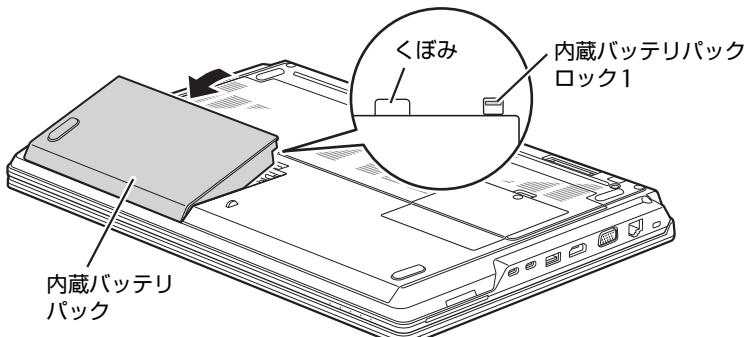
ここでは内蔵バッテリパックの交換方法について説明します。

交換したバッテリの処分については、『製品ガイド（共通編）』の「廃棄・リサイクル」をご覧ください。

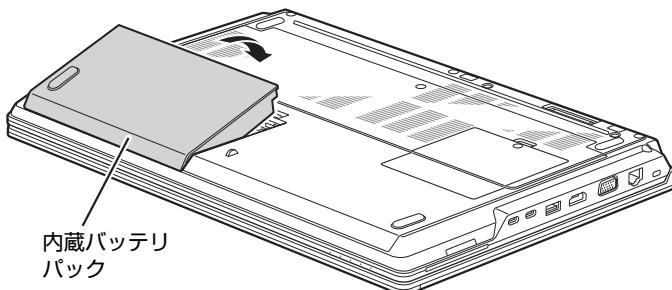
- 1 ワークステーションの電源を切り、ACアダプタを取り外します。
電源の切り方は、「2.6.2 電源を切る」(→P.36) をご覧ください。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、ワークステーション本体を静かに裏返します。
- 3 (1) 内蔵バッテリパックロック1を矢印の向きに押しながら、(2) 内蔵バッテリパックパックロック2を矢印の向きに動かし、内蔵バッテリパックのロックを解除します。



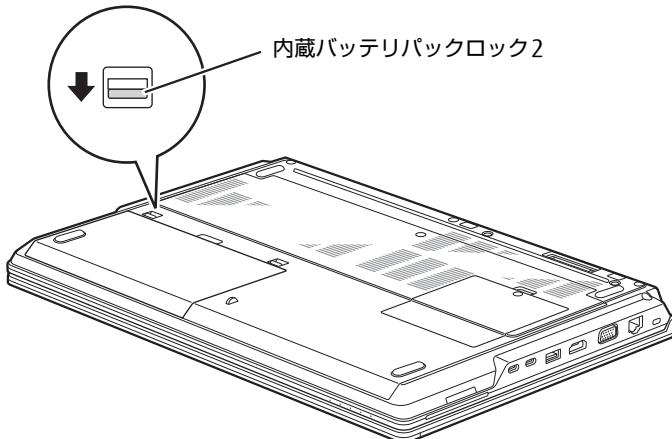
- 4 内蔵バッテリパックロック1を矢印の向きに押したままくぼみに指をかけ、内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げて取り外します。



- 5 内蔵バッテリパックのロックが解除されていることを確認し、新しい内蔵バッテリパックをしっかりととはめ込みます。



- 6 内蔵バッテリパックロック2を矢印の向きに戻し、内蔵バッテリパックをロックします。



2.7.5 バッテリの充電モードを変更する

バッテリの充電モードを「80%充電モード」に変更しバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。



- ▶ 「80%充電モード」に設定すると、バッテリ駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。

- 1 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーウェブユーティリティ」→「バッテリーウェブユーティリティ」の順にクリックします。
- 2 「バッテリー満充電量」をクリックします。
- 3 「変更」をクリックします。
- 4 「フル充電モード（100%充電）」または「80%充電モード」を選択し、「OK」をクリックします。
- 5 「閉じる」をクリックします。

2.7.6 バッテリの状態を確認する

バッテリの情報や消耗状態の確認は、「バッテリーウェブユーティリティ」で行うことができます。

■ バッテリの情報を確認する

- 1 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーウェブユーティリティ」→「バッテリーウェブユーティリティ」の順にクリックします。
- 2 「バッテリーの情報」をクリックします。
「サイクル数」、「残量」、「消耗状態」などを確認できます。

2.8 通信

ここでは本ワークステーションの通信機能について説明しています。

ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.76）をご覧ください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。
『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」—「1.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」をご覧になり、「Plugfree NETWORK」をインストールしてください。
また、「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
 1. 「スタート」ボタン→「Plugfree NETWORK」→「使用場所管理の使い方」および「ネットワーク診断の使い方」の順にクリックします。

2.8.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「3.3.5 LANコネクタ」（→P.71）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 注意事項

- Link速度を1000Mbpsに固定して接続することはできません。
- 本ワークステーションに搭載されているLANデバイスには節電機能があります。この機能は、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れるとき、通信速度を下げるにより電力消費を抑えるものです。
節電機能が有効に設定されていると、次の条件にすべて一致する環境でお使いの場合に、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れるときに通信エラーが発生することがあります。
 - ・ LANデバイスの設定で、「速度とデュップレックス」が「オートネゴシエーション」に設定されているとき（ご購入時の設定）
 - ・ 本ワークステーションを、オートネゴシエーションが可能なネットワーク機器と接続しているときこれにより問題がある場合は、「■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する」（→P.48）をご覧になり、この機能を無効に設定してください。

■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する

LANデバイスの節電機能の設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1 管理者アカウントでサインインします。
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.7）を表示します。
- 3 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
- 4 画面左側のメニューで「デバイスマネージャー」をクリックします。
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 5 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
- 6 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) Ethernet Connection I219-LM
- 7 「詳細設定」タブをクリックします。
- 8 「プロパティ」で「システム無動作時の節電機能」をクリックし、「値」で「有効（オン）」または「無効（オフ）」を選択します。
- 9 「OK」をクリックします。

2.8.2 無線LAN

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。

無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

また、無線LANの仕様については、「5.4 無線LAN」（→P.86）をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.7）を表示します。
- 2 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「デバイスマネージャー」をクリックします。
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 4 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
本ワークステーションに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

2.8.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のワークステーションなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。

また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「5.1 本体仕様」(→P.76)をご覧ください。

2.8.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

■ステータスパネルスイッチ

ステータスパネルスイッチで、電波の発信／停止を切り替えます。

- 1 デスクトップ画面のタスクバーにある  をクリックします。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ワイヤレスオフモード」ボタンをクリックします。
ボタンをクリックするたびに、ON／OFFが切り替わります。

POINT

- ▶ 無線デバイスの発信／停止を個別に切り替えることもできます。詳しくは、「2.9 ステータスパネルスイッチ」(→P.51) をご覧ください。

ワークステーションに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。

- 1 【Fn】 + 【F5】キーを押します。
【Fn】 + 【F5】キーを押すたびに、電波の発信／停止が切り替わります。
ワイヤレス通信ランプ (→P.17) で、発信／停止を確認してください。

POINT

- ▶ F Lockランプ (→P.17) が点灯している場合はF Lock機能 (→P.15) が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F5】キーを押すだけで電波の発信／停止が切り替わります。

POINT 重要

- ▶ 無線デバイスは、個別に電波を発信／停止することもできます。
そのため、ワイヤレス通信ランプが点灯していても電波が停止しているデバイスや、反対にワイヤレス通信ランプが消灯していてもデバイスが電波を発信していることがありますのでご注意ください。
電波の発信／停止の状態は、ステータスパネルスイッチ（→P.51）または「■ Windows の機能」（→P.50）の手順で表示される画面で確認できます。
- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

■ Windowsの機能

Windowsの機能で、無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えることもできます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「ネットワークとインターネット」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「機内モード」をクリックします。

POINT

- ▶ 機内モード
 - ・機内モードとは、ワークステーションに搭載されている無線通信機能の電波を停止する機能です。機内モードを「オン」にすると電波が停止します。
 - ・【Fn】+【F5】キーを押すたびに機内モードのオン／オフを切り替えます。

- 3 画面右側の「機内モード」または「ワイヤレスデバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。

「機内モード」では無線通信の電波をまとめて発信／停止します。特定の電波の発信／停止を設定する場合は「ワイヤレスデバイス」で設定します。

	機内モード	ワイヤレスデバイス
「オン」に設定	すべての無線通信機能を停止	電波を発信
「オフ」に設定	すべての無線通信機能を発信	電波を停止

POINT 重要

- ▶ 機内モードを「オフ」にすると、ワイヤレス通信ランプ（→P.17）が点灯します。
- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

POINT

- ▶ Bluetoothワイヤレステクノロジーは、次の操作でも設定を切り替えることができます。
 1. 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。
 2. 画面左側のメニューで「Bluetoothとその他のデバイス」をクリックします。
 3. 画面右側のメニューでBluetoothの設定を切り替えます。
 - ・「オン」：電波を発信する
 - ・「オフ」：電波を停止する

2.9 ステータスパネルスイッチ

画面上のボタンを操作してモードを切り替えるだけで、画面の明るさやCPUのパフォーマンスなどを一括で変更し、ワークステーションを使用する状況に最適なモードに変更することができる機能です。

2.9.1 注意事項

- CPUパフォーマンスを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
 - ・低
 - ・中
- このような場合には、「各デバイスの状態の切り替え」で「CPUパフォーマンス」を次の設定にしてください。
 - ・高
 - ・「モード切り替え設定」で、CPUパフォーマンスのチェックを外す（→P.53）
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの使用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをワークステーションに装着してください。
- Windowsへサインインした直後は、各デバイスの状態を切り替えると、切り替えに失敗する場合があります。
各デバイスの状態の切り替えは、Windowsへサインインした後、しばらくしてから実行してください。

2.9.2 ステータスパネルスイッチを起動する

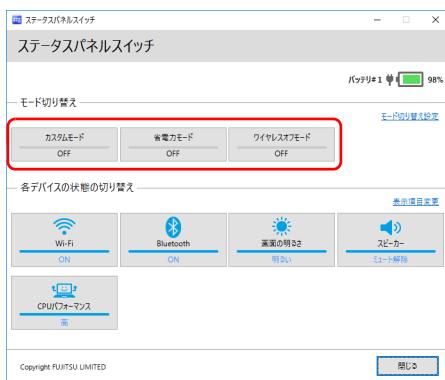
- 1 デスクトップ画面のタスクバーにある  をクリックします。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ 次の操作でも起動できます。
 1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」→「ステータスパネルスイッチ」の順にクリックします。

2.9.3 ステータスパネルスイッチでモードを切り替える

- 1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え」から使用したいモードのボタンをクリックします。
- 選択したモードに切り替わります。



設定モード	
カスタムモード	各デバイスの状態を個別に設定して、カスタムモードとして登録できます。設定方法については「2.9.4 各モードの設定を変更する」(→P.53)をご覧ください。
省電力モード	画面の明るさやCPUのパフォーマンスを下げることで、ワークステーションの消費電力を抑えることができるモードです。
ワイヤレスオフモード	無線LANやBluetoothワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。

POINT

- 「各デバイスの状態の切り替え」では、それぞれの機能のボタンをクリックすると、個別に状態を変更できます。
- 「表示項目変更」をクリックすると、「各デバイスの状態の切り替え」に表示する項目を変更できます。
- 画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。
- 【Fn】キーを押しながら【ECO】の刻印のあるキーを押して、省電力モードの「ON」／「OFF」を切り替えることもできます。
【ECO】の刻印のあるキーの場所については、「1章 各部名称」(→P.10)をご覧ください。また、F Lockランプ(→P.17)が点灯している場合は、F Lock機能(→P.15)が有効になっているので【Fn】キーを押さずに【ECO】の刻印のあるキーを押すだけで切り替わります。

2.9.4 各モードの設定を変更する

各モードで制御するデバイスの選択や、各デバイスの状態を個別に変更できます。

- 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え設定」をクリックします。



- 2 設定を変更します。

- 1 モードを選択します。
- 2 制御するデバイスを選択します。
- 3 デバイスの状態や値を設定します。



- 3 「適用」をクリックします。

- 4 「OK」をクリックします。

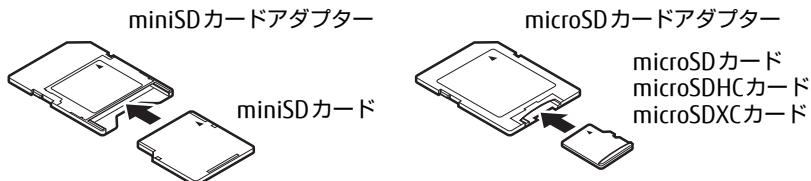
2.10 ダイレクト・メモリースロット

ここでは、ダイレクト・メモリースロットに、SDメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。

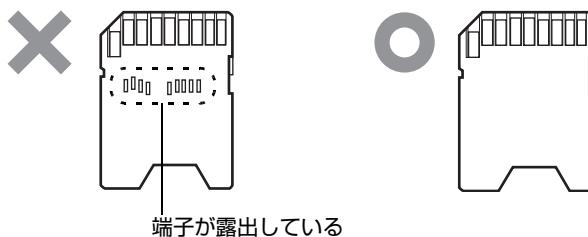
メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、ダイレクト・メモリースロットの仕様については、「5.1 本体仕様」(→P.76) をご覧ください。

2.10.1 注意事項

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシャやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。
- miniSDカード、microSDカード、microSDHCカード、microSDXCカードをお使いになるには、アダプターが必要です。そのまま挿入するとメモリーカードが取り出せなくなります。



- アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしたり取り出したりしてください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。
- 裏面の中央部に端子が露出しているタイプのminiSDカードアダプターは使用できません。故障の原因となります。



UHS-II対応のSDXCカードも裏面中央から端子が露出していますが、このカードはそのまま使用してください。

- メモリーカードは、ダイレクト・メモリースロットから飛び出した状態でセットされます。飛び出した部分にものを載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

2.10.2 使用できるメモリーカード

すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード	対応
SDメモリーカード ^{注1}	○
	○
	○
	○
	○
	○
	○
SDIOカード	×

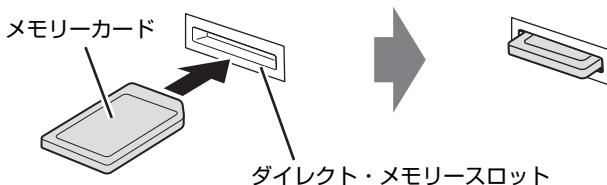
注1：・著作権保護機能には対応していません。

・マルチメディアカード（MMC）、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

注2：アダプターが必要です。

2.10.3 メモリーカードをセットする

- 1 メモリーカードのラベル面を上に、端子側を奥にしてダイレクト・メモリースロット（→P.13）に奥まで差し込みます。

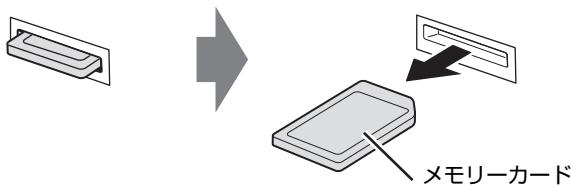


POINT

- ▶ メッセージ（画面右下）が表示された場合は、そのメッセージをクリックし、必要に応じて動作を選択するか、メッセージを閉じてください。

2.10.4 メモリーカードを取り出す

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（）をクリックします。
- 2 取り外すメモリーカードをクリックし、表示されるメッセージに従います。
- 3 メモリーカードを引き抜きます。



2.11 暗号化機能付フラッシュメモリディスク

対象 暗号化機能付フラッシュメモリディスク搭載機種

「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、OSやプログラムを含むフラッシュメモリディスク上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。

BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、フラッシュメモリディスクへのアクセスはパスワードで管理され、認証された使用者のみが復号されたデータ入手できます。

また、本ワークステーションからフラッシュメモリディスクを抜き取り、他のワークステーションに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSのパスワード機能を使う」をご覧ください。

2.12 セキュリティチップ（TPM）

セキュリティチップ（TPM）は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、ハードディスクが盗まれても暗号を解析できません。

2.13 電源オフUSB充電機能

本ワークステーションには電源オフUSB充電機能が搭載されています。電源オフUSB充電機能とは、ワークステーション本体の電源が入っていなければ省電力状態だったりした場合でも、携帯電話などUSB充電に対応したUSB対応周辺機器を充電することができる機能です。

ここでは電源オフUSB充電機能の設定を変更する方法について説明しています。

2.13.1 注意事項

- という刻印のあるUSB3.0 Type-Aコネクタ（→P.13）のみ電源オフUSB充電機能に対応しています。
- 電源オフUSB充電機能を有効にした場合、USBメモリなどの充電機能を持たないUSB周辺機器は、電源オフUSB充電機能対応のUSBコネクタに接続しないでください。
- USBキーボードまたはUSBマウスは、電源オフUSB充電機能の有効／無効にかかわらず、電源オフUSB充電機能対応のUSBコネクタには接続できません。
- USB対応周辺機器によっては、電源オフUSB充電機能を使用できない場合があります。
- 電源ボタンを4秒以上押して本ワークステーションの電源を切った場合は、電源オフUSB充電機能は動作しません。
- 電源オフUSB充電機能が有効に設定されている場合、本機能に対応したUSBコネクタに接続したUSB対応周辺機器を操作して省電力状態からレジュームすることはできません。
- 電源オフUSB充電機能が有効に設定されている場合、省電力状態からレジュームしたときに、本機能に対応したUSBコネクタに接続されたUSB対応周辺機器で次の現象が発生する場合があります。これらの現象が発生してもUSB対応周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
 - ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
 - ・「自動再生」ウィンドウが表示される
 - ・関連付けられているアプリが起動する
 - ・ドライブ文字が変わる

2.13.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する

電源オフUSB充電機能の設定を変更するには「電源オフUSB充電ユーティリティ」を使用します。

☞ 重 要

- ▶ 「電源オフUSB充電ユーティリティ」をご使用になる場合は、インストールする必要があります。
インストール方法については、『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」—「1.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」をご覧ください。

🔍 POINT

- ▶ BIOSセットアップで変更することもできます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

- 1 「スタート」ボタン→「FUJITSU - 電源オフUSB充電ユーティリティ」→「設定」の順にクリックします。
- 2 お使いになる設定を選択します。

🔍 POINT

- ▶ 「充電する（ACアダプタもしくはバッテリ運用時）」に設定していても、バッテリ残量が12%以下になると電源オフUSB充電機能は停止します。

- 3 「変更」をクリックします。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に	62
3.2 メモリ	63
3.3 コネクタの接続／取り外し	68

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本ワークステーションに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからワークステーション本体の電源を入れ、ワークステーション本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によつては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 メモリ

ここでは、本ワークステーションにメモリを取り付ける方法について説明します。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.62)をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ずワークステーション本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。電源の切り方については、「2.6.2 電源を切る」(→P.36)をご覧ください。また、バッテリパックを取り外してください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 取り外したネジなどをワークステーション本体内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- プラスドライバー（1番）を用意してください。
- メモリ増設後、本ワークステーションの起動に時間がかかる場合がありますが、「FUJITSU」ロゴが表示されるまでそのままお待ちください。

3.2.2 取り付けられるメモリ

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。この表の組み合わせ以外で、メモリを取り付けないでください。

インテル® Xeon® E プロセッサー搭載機種の場合

メモリスロット	メモリ組み合わせ			
DIMM 1 ^注	8 GB	8 GB	8 GB	16 GB
DIMM 2 ^注	8 GB	8 GB	8 GB	16 GB
DIMM 3	—	8 GB	16 GB	16 GB
DIMM 4	—	8 GB	16 GB	16 GB
メモリ総容量	16 GB	32 GB	48 GB	64 GB

注：メモリスロットDIMM 1、DIMM 2に搭載されているメモリは変更することはできません。

インテル® Core™ i7 プロセッサー、 インテル® Core™ i5 プロセッサー搭載機種の場合

メモリスロット	メモリ組み合わせ							
DIMM 1 ^注	4 GB	4 GB	8 GB	4 GB	8 GB	4 GB	8 GB	16 GB
DIMM 2 ^注	4 GB	4 GB	8 GB	4 GB	8 GB	4 GB	8 GB	16 GB
DIMM 3	—	4 GB	—	8 GB	8 GB	16 GB	16 GB	16 GB
DIMM 4	—	4 GB	—	8 GB	8 GB	16 GB	16 GB	16 GB
メモリ総容量	8 GB	16 GB	16 GB	24 GB	32 GB	40 GB	48 GB	64 GB

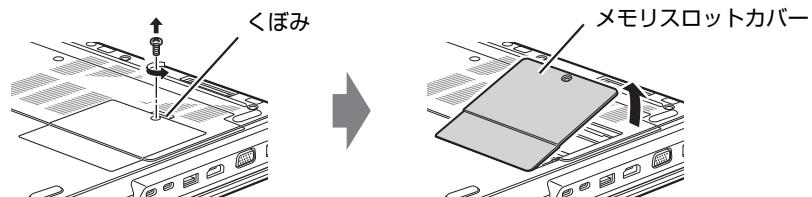
注：メモリスロットDIMM 1、DIMM 2に搭載されているメモリは変更することはできません。

3.2.3 メモリを取り付ける

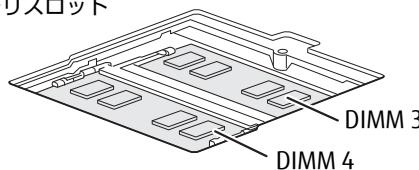
1 「2.7.4 バッテリを交換する」(→P.44) をご覧になり、バッテリを取り外します。

2 メモリスロットカバーを取り外します。

メモリスロットカバーのネジを外し、くぼみに指をかけて取り外します。



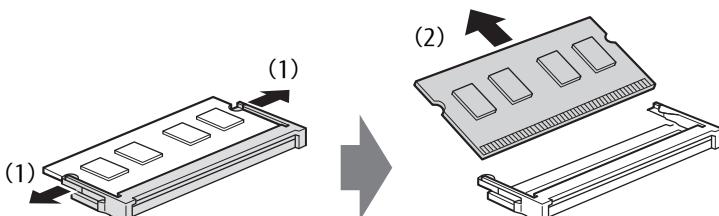
●メモリスロット



※ メモリスロットDIMM 1/DIMM 2に
搭載されているメモリは、交換でき
ません。

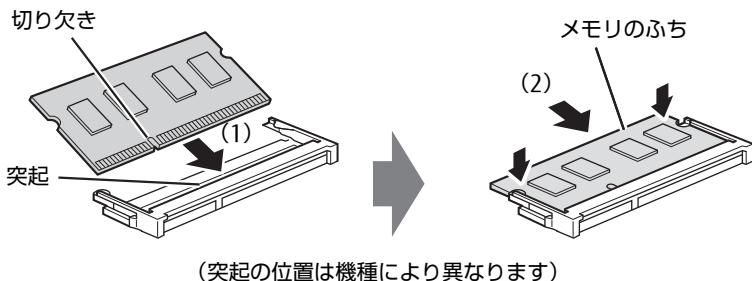
3 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。

1. メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除します。
2. メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。



4 メモリを取り付けます。

1. メモリの切り欠き部とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込みます。
2. メモリのふちを押しながらメモリを下に倒します。メモリスロット両側のフックがメモリを固定していることを確認してください。



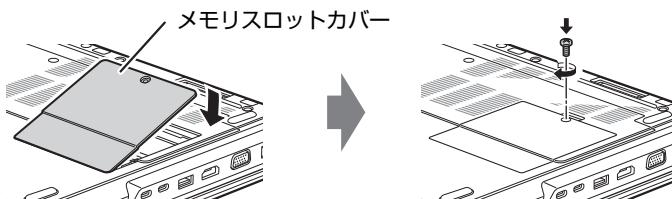
(突起の位置は機種により異なります)

☞ 重要

- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

5 メモリスロットカバーを取り付けます。

メモリスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。



6 「2.7.4 バッテリを交換する」(→P.44) をご覧になり、バッテリを取り付けます。

7 BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧になり、「情報」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

☞ 重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押して本ワークステーションの電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本ワークステーションが起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.2.4 メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。



- ▶ 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

3.3 コネクタの接続／取り外し

ここでは、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。

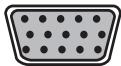
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「5.1 本体仕様」(→P.76) をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.62) をお読みになってから作業をしてください。

3.3.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずワークステーション本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.3.2 ディスプレイコネクタ



アナログディスプレイコネクタ



HDMI出力端子

外部ディスプレイを接続します。ワークステーション本体の電源を切ってから接続してください。

■ 接続する

- 1 ワークステーション本体の電源を切ります。
- 2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
- 3 ディスプレイの電源を入れてから、ワークステーション本体の電源を入れます。

■ 取り外す

POINT

- ▶ マルチディスプレイ機能（→P.27）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□ アナログディスプレイコネクタ

- 1 ワークステーション本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

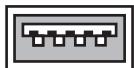
□ HDMI出力端子

- 1 ワークステーション本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.3.3 USBコネクタ



USB3.1 Type-Cコネクタ



USB3.1 Type-Aコネクタ／USB3.0 Type-Aコネクタ

USB対応周辺機器を接続します。ワークステーション本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

POINT

- ▶ USB3.1 Type-Cコネクタは、どちらの向きでも差し込むことができます。

■ 取り外す

☞ 重要

- ▶ USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
 - 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（）をクリックします。
 - 2 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.3.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。ワークステーション本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

☞ 重要

- ▶ マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

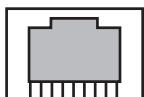
■ 接続する

- 1 マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.3.5 LANコネクタ



LANケーブルを接続します。ワークステーション本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

☞ 重 要

- ▶ 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハシスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

- 1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 コネクタのツメを押さえながら、LANケーブルをまっすぐに引き抜きます。

4

第4章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

4.1 日常のお手入れ	73
-------------------	----

4.1 日常のお手入れ

ワークステーション本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまつたりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

4.1.1 ワークステーション本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

■ 重 要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

■ 重 要

- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

4.1.2 手のひら静脈センサー

対 象 手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサーにほこりや汚れが付いたりすると、手のひら静脈認証の精度が低下する可能性があります。手のひら静脈センサーのほこりや汚れは、次の方法で取り除いてください。

- ほこりは乾いた柔らかい布で軽く払います。
- 汚れは乾いた柔らかい布で軽く拭き取ります。

■ 重 要

- ▶ 水を使用しないでください。損傷する原因となります。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

4.1.3 液晶ディスプレイ

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ▶ 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。ワークステーション本体が倒れるおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

5

第5章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

5.1 本体仕様	76
5.2 CPU	81
5.3 ディスプレイ	83
5.4 無線LAN	86

5.1 本体仕様

5.1.1 CELSIUS H780

製品名称		CELSIUS H780				
CPU <small>注1</small>	名称	インテル® vPro™ テクノロジー搭載 インテル® Xeon® E-2176M プロセッサー	インテル® Core™ i7-8850H vPro™ プロセッサー	インテル® Core™ i5-8400H vPro™ プロセッサー		
	動作周波数	2.70GHz (最大4.40GHz <small>注2</small>)	2.60GHz (最大4.30GHz <small>注2</small>)	2.50GHz (最大4.20GHz <small>注2</small>)		
	コア数／スレッド数	6／12		4／8		
	キャッシュメモリ	3次：12MB	3次：9MB	3次：8MB		
チップセット		モバイル インテル® CM246チップセット	モバイル インテル® QM370チップセット			
システムバス／メモリバス		8GT/s DMI <small>注3</small> ／2400MHz				
メインメモリ		標準16GB (8GB×2) <small>注4</small> ／ 最大64GB <small>注5</small> (DDR4 SDRAM SO-DIMM ECCあり)	標準8GB (4GB×2) <small>注6</small> ／最大64GB <small>注5</small> (DDR4 SDRAM SO-DIMM ECCなし)			
メモリスロット		×4 (空きメモリスロット×2) <small>注7</small>				
表示機能	グラフィックスアクセラレータ <small>注8</small>	Intel® UHD Graphics P630 (CPUに内蔵)／ NVIDIA® Quadro® P2000	Intel® UHD Graphics 630 (CPUに内蔵)／ NVIDIA® Quadro® P1000	Intel® UHD Graphics 630 (CPUに内蔵)／ NVIDIA® Quadro® P600		
	液晶ディスプレイ <small>注9</small>	LEDバックライト付15.6型ワイドTFTカラー				
	解像度／ 発色数 <small>注10</small>	液晶 ディスプレイ表示	フルHD (1920×1080 ドット／1677万色)			
		外部 ディスプレイ表示	アナログ：最大1920×1200 ドット／最大1677万色 USB Type-C：最大3840×2160 ドット／最大1677万色 HDMI：最大4096×2160 ドット／最大1677万色			
ストレージ <small>注11</small>		ハードディスク500GB (シリアルATA、5400rpm) <small>注12</small>				
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック				
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ (再生時) <small>注13</small> サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ (録音時) <small>注13</small> 同時録音再生機能				
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート				
	スピーカー	ステレオスピーカー				
	マイク	デュアルマイク				
Webカメラ		有効画素数 約207万画素				
キーボード		テンキー付アイソレーションキーボード (キーピッチ約18.4mm、キーストローク約1.7mm、108キー、JIS配列準拠)				
ポインティングデバイス <small>注14</small>		フラットポイント				
通信機能	LAN	1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠 <small>注15</small> 、Wake up on LAN対応 <small>注16</small>				
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi® 準拠) <small>注17</small>			
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 <small>注18</small>			
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー <small>注19</small>	Bluetooth v5.0準拠				

製品名称		CELSIUS H780				
インテル® vPro™ テクノロジー／AMT		〇／V12.0 ^{注20}				
セキュリティ機能						
指紋センサー ^{注21}		タッチ式				
手のひら静脈センサー ^{注21}		あり				
スマートカード		×1 (専用スロット) ^{注22}				
セキュリティチップ (TPM)		TCG Ver 2.0準拠				
盗難防止用ロック取り付け穴		あり				
インターフェース	SDメモリーカード ^{注23}		×1スロット			
	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGBミニD-SUB15ピン×1			
		HDMI ^{注24}	HDMI出力×1			
	USB ^{注25注26}	Type-A	USB3.1(Gen2)準拠×2 (右側面) USB3.0準拠×1 (左側面 (電源オフUSB充電機能対応))			
		Type-C ^{注27}	Thunderbolt3 (USB3.1 Gen2対応、DisplayPort1.4対応) ×2 (左側面)			
LAN		RJ-45×1				
オーディオ	マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用 ^{注28}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1			
	状態表示		LED			
電源供給方式	ACアダプタ ^{注29}	入力AC100V～240V、出力DC19.5V (11.8A)				
	バッテリ	リチウムイオン 96Wh				
バッテリ駆動時間 ^{注30注31} (JEITA測定法2.0) ^{注32}		約9.5時間	約10.3時間	約10.4時間		
バッテリ充電時間 ^{注33}		約2.5時間				
消費電力 ^{注34} (最大時)		約12W (約163W)	約13W (約163W)	約11W (約163W)		
外形寸法 (突起部含まず)		W 380.0×D 258.0×H 31.9mm				
質量		約2.7kg				
電波障害対策		VCCIクラスB				
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/) にある、 製品情報の仕様をご覧ください。				
国際エネルギースタープログラム ^{注35}		対応 ^{注36}				
温湿度条件		温度5～35°C／湿度20～80%RH (動作時) 温度-10～60°C／湿度20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)				
ブレインストールOS ^{注37}		Windows 10 Pro for Workstations (64ビット版)	Windows 10 Pro (64ビット版)			
サポートOS ^{注37注38}		Windows 10 Enterprise (64ビット版)、 Windows 10 Pro for Workstations (64ビット版)	Windows 10 Enterprise (64ビット版)、 Windows 10 Pro (64ビット版)			

本ワークステーションの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本ワークステーションに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」(→P.81)をご覧ください。
- 注2：インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0 (→P.81) 動作時。
- 注3：DMIはDirect Media Interfaceの略です。
- 注4：カスタムメイドの選択によっては、次の容量のメモリが搭載されています。
・64GB (16GB×4)
・32GB (8GB×4)
- 注5：メモリの増設時は、場合によりすでに搭載されているメモリを取り外す必要があります。
- 注6：カスタムメイドの選択によっては、次の容量のメモリが搭載されています。
・64GB (16GB×4)
・32GB (8GB×4)
・16GB (8GB×2)
- 注7：カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。
- 注8：グラフィックスアクセラレーターの仕様については、「5.1.2 グラフィックスアクセラレーター」(→P.80)をご覧ください。
- 注9：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られていますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・本ワークステーションで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウインドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。
- 注10：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
- 注11：容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注12：カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク 256GB (シリアルATA)
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク 512GB (シリアルATA)
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク 512GB (NVMe)
- 注13：使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注14：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式またはレーザー式）が添付されています。
- 注15：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリリー5（カテゴリリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- 注16：・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake up on LAN機能は使用できません。
・Wake up on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・本ワークステーションの有線LANインターフェース
・本ワークステーションの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本ワークステーションが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake up on LAN機能が動作しない場合があります。
・Wake up on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリの駆動時間が短くなります。
Wake up on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・省電力状態からのWake up on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.35)をご覧ください。
・電源オフ状態からのWake up on LAN機能を使用するには、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wake up on LANを有効にする」をご覧ください。
- 注17：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注18：IEEE 802.11n準拠またはIEEE 802.11ac準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注19：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注20：インテル® AMTの一部機能が使用できない場合があります。版数は予告なく切り替わる場合があります。
- 注21：カスタムメイドの選択によっては、手のひら静脈センサーか指紋センサーのいずれかが搭載されます。
- 注22：BIOSパスワードをスマートカード認証に置き換えることはできません。
- 注23：・すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
・著作権保護機能には対応していません。
・マルチメディアカード（MMC）、およびセキュアマルチメディアカードには対応していません。
・miniSDカード、microSDカード／microSDHCカード／microSDXCカードをお使いの場合は、アダプターが必要になります。
・ご使用可能なSDメモリーカードは最大2GB、SDHCメモリーカードは最大32GB、microSDXCカードは最大128GB、SDXCメモリーカードは最大512GBまでとなります。
・SDIOカードには対応していません。

注24：・HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。

注25：すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。

注26：外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- ・USB3.1 (Gen2) Type-Aは、1ポートにつき900mA
- ・USB3.0 Type-Aは、1ポートにつき900mA
ただし、電源オフUSB充電機能対応のUSBコネクタは、1ポートにつき1.5A
- ・USB3.1 (Gen2) Type-Cは、1ポートにつき5V／3.0A

注27：すべてのThunderbolt対応周辺機器、USB対応周辺機器、DisplayPortの動作を保証するものではありません。

注28：ご購入時はヘッドホン出力に設定されています。マイク端子、ヘッドセット端子として使用するには「2.5.4 オーディオ端子の機能を切り替える」(→P.31)をご覧ください。

注29：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続されると、故障する場合があります。

注30：バッテリ駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。

注31：BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」→「ハードウェア省電力機能」を「使用する」に設定した場合のバッテリ駆動時間です。

注32：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver.2.0）」(<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=84&ca=14>)に基づいて測定。

注33：・電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・バッテリーアクティビティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。

注34：・当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準ハードディスク容量、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力は、約0.2W（満充電時）です。

電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

注35：「国際エネルギーestarプログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

注36：当社は、国際エネルギーestarプログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギーestarプログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



注37：日本語版。

注38：・富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。

- ・Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド（共通編）』の「付録2 Windowsの新規インストールについて」をご覧ください。

5.1.2 グラフィックスアクセラレーター

表示機能	グラフィックスアクセラレータ	NVIDIA® Quadro® P2000	NVIDIA® Quadro® P1000	NVIDIA® Quadro® P600
	ビデオメモリ注1		4GB (GDDR5)	
	DirectX		12.0	
	OpenGL		4.5注2	

注1：専用ビデオメモリの他、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。その容量はメインメモリの容量により変動します。

注2：サポートするOpenGLのバージョンは、お使いのディスプレイドライバーによって異なる場合があります。

5.2 CPU

本ワークステーションに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- ▶ OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のアプリを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- ▶ OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ 拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー（EIST）

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のアプリのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- ▶ この機能により本ワークステーションの性能が低下することがあります。

■ エグゼキュー・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュー・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファー・オーバーフロー脆弱性）を防ぎます。

データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[アプリ名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

5.3 ディスプレイ

5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

ワークステーション本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのシングル表示の場合、拡張デスクトップ表示の場合に、本ワークステーションが出力可能な解像度です。

外部ディスプレイの場合、お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。

POINT

- ▶ お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ ワークステーション本体の液晶ディスプレイ

解像度	対応
1024×768	○
1280×720	○
1280×800	○
1280×1024	○
1360×768	○
1366×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1680×1050	○
1920×1080	○

■ 外部ディスプレイ※

※ アナログ接続／USB Type-C接続／HDMI接続

解像度	リフレッシュレート (Hz)	対応
1024×768	60	○
	70 ^{注1}	
	75 ^{注1}	
	85 ^{注1}	
1280×720	60	○
1280×800	60	○
1280×1024	60	○
	75 ^{注1}	
	85 ^{注1}	
1360×768	60	○
1366×768	60	○
1440×900	60	○
1600×900	60	○
1600×1200	60	○
1680×1050	60	○
1920×1080	60	○
1920×1200	60	○
1920×1440 ^{注2注3}	60	○
2560×1440 ^{注2注3}	60	○
2560×1600 ^{注2注3}	60	○
3840×2160 ^{注2注3}	60	○
4096×2160 ^{注3}	60	○

注1：次の場合は設定できません。最大リフレッシュレートは60Hzになります。

- ・ USB Type-C接続
- ・ HDMI接続

注2：USB Type-Cコネクタを使用する場合に表示可能。

注3：HDMI出力端子を使用する場合に表示可能。

5.3.2 クローン表示の解像度

クローン表示する場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイの仕様により異なります。同時に表示する2つのディスプレイの、最大解像度より小さい解像度またはそれ未満の解像度で表示できます。

お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。

POINT

- お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ ワークステーション本体の液晶ディスプレイ+外部ディスプレイ※

※ アナログ接続／USB Type-C接続／HDMI接続

解像度	対応
1024×768	○
1280×720	○
1280×800	○
1280×1024	○
1360×768	○
1366×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1680×1050	○
1920×1080	○

5.4 無線LAN

本ワークステーションに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Wireless-AC 9560

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi®準拠）注1	
転送レート	IEEE 802.11b準拠	11～1Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11a準拠 IEEE 802.11g準拠	54～6Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11n準拠	300～6Mbps（自動切り替え、HT20/40対応）注2
	IEEE 802.11ac準拠	1733～6Mbps（自動切り替え、VHT20/40/80/160対応）注3
セキュリティ注4	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEPキー）：64／128ビット）注5 WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）	
使用周波数範囲	2,400MHz～2,483.5MHz 5,150MHz～5,340MHz 5,460MHz～5,740MHz	
チャンネル数注6	IEEE 802.11b準拠 IEEE 802.11g準拠	1～13ch
	IEEE 802.11a準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）
	IEEE 802.11n準拠	・ 2.4GHzモード 1～13ch ・ 5GHzモード W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）
	IEEE 802.11ac準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）

注1：Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注2：・ IEEE 802.11nではHT20/40に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

- ・ IEEE 802.11nを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、HT40の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHT40の機能を無効にしてください。

注3：・ IEEE 802.11acではVHT20/40/80/160に対応しています。VHT80/160を利用するには、無線LANアクセスポイントもVHT80/160に対応している必要があります。

- ・ IEEE 802.11acを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、VHT40/80/160の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにVHT40/80/160の機能を無効にしてください。

注4：IEEE 802.11n、IEEE 802.11acで接続するためには、パスフレーズ（PSK）をAESに設定する必要があります。

注5：WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。

注6：このワークステーションに搭載されている無線LANのIEEE 802.11bでは、無線チャンネルとしてチャンネル1～13を使用しています。無線LANアクセスポイントのチャンネルを、1～13の間で設定してください。設定方法については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

□ 5GHz帯のチャンネルについて

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n/ac

W52 W53 W56

IEEE 802.11a/b/g/n/ac準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52 : 36 (5,180MHz) /40 (5,200MHz) /44 (5,220MHz) /48 (5,240MHz)
- W53 : 52 (5,260MHz) /56 (5,280MHz) /60 (5,300MHz) /64 (5,320MHz)
- W56 : 100 (5,500MHz) /104 (5,520MHz) /108 (5,540MHz) /112 (5,560MHz) /116 (5,580MHz) /120 (5,600MHz) /124 (5,620MHz) /128 (5,640MHz) /132 (5,660MHz) /136 (5,680MHz) /140 (5,700MHz)

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

CELSIUS
H780

製品ガイド（機種別編）
B6FK-1091-01 Z0-00

発行日 2018年10月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。